

令和6年9月3日

HYOGO
SPORT
ASSOCIATION

中長期ビジョン 2023-2027 －2023年度点検シート－



公益財団法人
兵庫県スポーツ協会

Dream of Hyogo 夢を、感動を、未来へ！

- 私たちの夢は、兵庫県ゆかりのトップアスリートが、オリンピックなどの国際大会や全国大会で活躍し、県民に「夢を」、「感動を」を与え、子どもたちがその姿にあこがれて次代のトップアスリートを目指すことです。
- 大人たちもその感動を社会生活に生かし、スポーツに親しんだり、あるいはスポーツを支えたりすることで、地域社会が元気になり、その活力が「未来へ」と繋がっていくことも私たちの願いです。
- 私たちは、「Dream of Hyogo」の実現に向けて、スポーツの多様化に対応した新たなスポーツの振興やスポーツのDX化などに取り組み、スポーツの持つ多面的な価値を最大限に創出します。
- 一人でも多くの県民が自らスポーツに触れ、その魅力である“夢と感動”を感じ、豊かに暮らす“未来”の実現に向け、私たちは、さらに歩みを進めます。

Concept=Overall Vision > Mission>Vision>Value

>10年後の姿を見据え前半5年間に取り組むべき施策・事業方針を明示

Mission

- 1 当協会は、「スポーツ」を総合的に推進する団体として、県民のスポーツ振興、競技力向上等の事業をより一層推進していきます。
- 2 当協会は、県民が健康で心豊かに過ごせるよう、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、さらには文化の高揚、福祉の増進のために、アスリートの栄養管理やメンタルヘルス、食を通じた児童・生徒の健全育成、スポーツ施設における地域の交流拠点の創出などの幅広い事業を積極的に展開していきます。
- 3 当協会は、県、加盟団体、(公財)日本スポーツ協会をはじめとして、医療機関、民間事業者等のスポーツに関わる様々な組織・団体と緊密に連携・協力しながら、「する・みる・ささえる」スポーツの参画を通して、より多くの県民がスポーツの楽しさや感動を分かち合い、互いに支えあう「スポーツ文化」の成熟を目指します。

Vision

1. 競技スポーツの推進

2. 生涯スポーツの推進

3. スポーツ施設の管理運営

4. 学校給食・食育支援
事業の推進

5. 組織運営体制の
整備・充実

Value

- 1 国民体育大会（国民スポーツ大会）への参加支援
- 2 選手及び指導者の育成・競技力の向上
- 3 新たなジュニア層の発掘・育成

- 1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
- 2 地域のスポーツ環境の充実
- 3 スポーツ功績者表彰

- 1 安全・安心な管理運営
- 2 魅力ある施設づくり
- 3 持続可能な運営体制

- 1 安全で良質な学校給食用物資の供給
- 2 地産地消を含めた食育支援活動の促進
- 3 人材の育成

- 1 組織体制・ガバナンスの強化
- 2 経営基盤の強化・充実

競技スポーツの推進

1 アウトカム指標（★は第2期兵庫県スポーツ推進計画の指標）

指標	R5実績値	R6目標値	R9目標値	R14目標値
★兵庫県スポーツ賞 優秀賞及び 兵庫県スポーツ協会表彰(優秀選手)の総数	537人	(472人)	(480人:R8)	(500人:R13)
<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県スポーツ賞優秀賞は国際大会等で上位8位以内に入賞した選手、兵庫県スポーツ協会表彰(優秀選手)は日本選手権、国体等の国内主要大会で上位8位以内に入賞した選手を表彰する制度である。 過去の実績をみると、表彰者の数と国体天皇杯の順位等において相関がみられるため、競技力向上の指標とした。 R5年度実績において、既に第2期「兵庫県スポーツ推進計画」の目標値(467人)を上回っているが、現時点で推進計画の目標値の見直しがなされていないため、当面、R5年度の実績値を上回ることを目指して取り組んでいく。 				
★国スポ順位	天皇杯10位 皇后杯5位	天皇杯・ 皇后杯8位以内	天皇杯・ 皇后杯8位以内	天皇杯・ 皇后杯8位以内
<ul style="list-style-type: none"> H22年国勢調査における本県の都道府県人口順位は7位である。人口と競技力は密接な関係がみられるため、引き続き天皇杯・皇后杯8以内を指標とした。 R5鹿児島国体では、天皇杯10位、皇后杯5位。天皇杯では、総合得点1,415点(R4:1,329点)と11年振りとなる高得点を獲得(8位入賞ラインは1,450点)。 				

競技スポーツの推進

2 バリューの創出

バリュー	取組の成果
国民体育大会（国民スポーツ大会）への参加支援	<ul style="list-style-type: none"> ・燃ゆる感動かごしま国体に35競技554人(R4:37競技589人)、冬季大会に3競技81人(R4:3競技72人)の選手団を派遣し、高得点となる総合得点1,415点(R4:1,329点)を獲得した。 ・「有力なふるさと選手の活用」「直前合宿の効果的な実施」等の競技団体の取組に加え、SNS等を活用した「大会の様子」の発信、スローガンである「Believe!」の唱和による一体感や機運の醸成等を通じて、チーム兵庫の意識向上を図った成果である。
選手及び指導者の育成・競技力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・強化選手(474人)、強化運動部・チーム(38団体)等を指定するとともに、スーパーアスリートに70人を指定するなど、選手の競技力向上を支援した。 ・指導者養成プログラム事業として、新たに「JSPO公認スポーツコーチングリーダー・スタートコーチ養成講習会サポート事業」「女性指導者サポート事業」を実施し、指導者確保と女性の資格者増加を図るとともに、チーム兵庫プロジェクト・1会議を開催するなど、指導者の養成と質の向上に努めた。
新たなジュニア層の発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・15歳以下の優れた選手2,436人を対象としたスーパージュニア育成プロジェクトに加え、新たに、小学5・6年生対象のフィフスプログラムを実施し、有力なジュニアアスリートの発掘育成を積極的に行った。 ・ゴールデンエイジプロジェクトに加え、新たに、未就学児と小学生を対象としたスポーツ体験会「ひょうご五国スポーツキャラバン」を開催し、兵庫全域において競技者の裾野拡大と才能ある選手の発掘にあたった。

生涯スポーツの推進

1 アウトカム指標

指標	R5実績値	R6目標値	R9目標値	R14目標値
スポーツ団体*登録者数の推移	779,218人	779,500人	779,800人	780,000人

- ・年齢・性別、体力、技能の程度や障害の有無等にかかわらず、多くの県民がスポーツ活動を楽しめる環境づくりを進める上で、競技団体とともに学校団体やスポーツ少年団、地域スポーツクラブなど生涯スポーツの活動拠点の存在が重要になる。そこで、これらの団体の登録者数を指標として設定した。
- ・少子高齢化が進み、する・みる・ささえるを通じたスポーツへの参画者が減少傾向の中、総合型地域スポーツクラブの育成・推進により、子どもから高齢者まで誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じてスポーツに親しむ環境の整備が求められることから、今後、ニュースポーツやアーバンスポーツ等の団体の加盟促進等を図ることで、目標値については、若干ずつであるが増加させることとした。

※スポーツ団体：競技団体、市町体育・スポーツ協会、学校団体、スポーツ少年団

生涯スポーツの推進

2 バリューの創出

バリュー	取組の成果
ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市町が実施するスポーツ事業を支援(7,736人参加)するとともに、県民スポーツ大会を開催(39,867人参加)するなど、県民スポーツ活動への参加を支援した。 ・海洋体育館の「海体祭」で、新たにハーフパイプショーやインラインスケート体験会などアーバンスポーツのイベントを開催するなど、多くの県民に多様なスポーツに親しむ機会の提供に努めた。
地域のスポーツ環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の県総合競技大会(2,441人参加)、競技別交歓大会(2,284人参加)を開催するとともに、スタートコーチ養成講習会などの指導者養成に取り組んだ。 ・総合型地域スポーツクラブの支援のため、クラブフェスタの開催(800人参加)や公認アシスタントマネジャーの養成にあたりるとともに、新たに、次世代のクラブ運営人材を育成するための研修会を実施した。 ・中学校の運動部活動の地域移行への理解を深めるため、新たに、市町に対して研修会の開催を支援した。
スポーツ功績者表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県スポーツ協会表彰として、体育功労賞26人(R4:33人)、優秀指導者32人(R4:28人)、優秀選手賞139人(R4:136人)、マスターズ賞86人(R4:66人)の計283人(R4:263人)を表彰した。

スポーツ施設の管理運営

1 アウトカム指標

指標	R5実績値	R6目標値	R9目標値	R14目標値
【直営】 天王ダムスポーツガーデン（収支対前年比）	100%	109%	112%	117%

- ・施設の安全の確保を図りながらも、持続的に魅力ある事業を展開できるよう、収益の向上を指標とした。
- ・現在の会員数(44人)の維持と新規会員の獲得により安定した収入を維持することを目指す。
- ・「てんだむフェスティバル」など様々なイベントを開催し、テニスだけではない天王ダムスポーツガーデンの魅力を発信するとともに、ナイター利用(R5：9.5%)の促進等による新たな利用者の開拓を想定し、目標値を設定した。

【指定管理・直営】 利用者数（延べ）				
海洋体育館	50,047人	52,250人	—	—
円山川公苑	82,378人	88,000人	—	—
武道館	412,317人	448,000人	—	—
弓道場	29,111人	29,700人	—	—
神戸常盤アリーナ	504,286人	494,500人	—	—
天王ダムスポーツガーデン	62,436人	64,200人	79,410人	99,000人

- ・県民スポーツ活動の拠点となるとともに、地域の交流拠点として日常的に一人でも多くの方がスポーツ活動に取り組むことが施設の目標となる。このため、利用者数を指標とした(R6神戸常盤アリーナ:プール改修のため利用者減)。
- ・なお、指定管理施設については、指定管理期間の終期までの設定とした。

スポーツ施設の管理運営

2 バリューの創出

バリュー	取組の成果
安全・安心な管理運営	<p>海洋体育館 最新の風向風速計を導入し、海上の風向きや風速を把握することで管理体制の安全強化を図った。</p> <p>円山川公苑 施設設備の修繕を積極的に進め、専門知識・資格を有する職員を配置し安全な体制を整えた。</p> <p>武道館 定期巡回を実施。夜間、休館日は警察にも依頼し安全体制の強化を図った。</p> <p>弓道場 利用団体、関係機関と連絡を密にし、安定的な運営体制を確立した。施設の小修繕や改良を実施した。</p> <p>天王DSG 治水対策の実施及び大規模除草作業により施設の安全性の向上を図った。</p>
魅力ある施設づくり	<p>海洋体育館 アーバンスポーツを取り入れた「海体祭」の開催、利用者からの細かな要望に応えた講座を設けることで好評を得た。</p> <p>円山川公苑 施設の立地条件を最大限に生かし、SUPをはじめパドルスポーツに関する自主事業を積極的に展開した。</p> <p>武道館 「武道始め」の実施（新規）などにあたって各武道団体と連携し、伝統文化の武道の普及と教室プログラムの充実に努めた。</p> <p>弓道場 幅広い年齢層の利用者が快適に使えるよう、手すりの設置、法面の改修など施設と周辺環境を整えた。</p> <p>天王DSG テニスイベントに加え、新たに様々なスポーツに挑戦できるイベントを開催した。</p>
持続可能な運営体制	<p>海洋体育館 貸出艇の修理、施設補修、廃棄物の処理等について、可能な限り職員で行い経費削減に取り組んだ。</p> <p>円山川公苑 運営経費等の上昇に対応するため、収益性の高い自主事業を増加させた。</p> <p>武道館 適切な受益者負担となるよう、講座受講料の見直しを行い、値上げを実施した。</p> <p>弓道場 弓道連盟と協議し、講座内容等の精選、適正な受益者負担に向けた講習会の料金改定など、R6に向けた事業の見直しを行った。</p> <p>天王DSG 関係団体、近隣施設、周辺住民と連携を図り、事業・イベントを展開した。</p>

学校給食・食育支援事業の推進

1 アウトカム指標

指標	R5実績値	R6目標値	R9目標値	R14目標値
売上の対前年比（パン、米飯）	103%	104%	101%	102%
<ul style="list-style-type: none"> ・安全で良質な学校給食物資を継続的かつ安定的に供給していくため、基本物資であるパン・米飯の売上を指標とした。 ・パン、米飯価格(1食)は、R元年度～R5年度まで(5年間)の平均値上げ率2.5%を毎年の値上げ率とする。 ・売上数量(食数)は、児童・生徒数の減少率を乗じて積算する。 ・現在のパン、米飯の供給先市町数(パン28市町、米飯25市町)を維持する。 ・以上の条件を踏まえ、目標値を設定した。 				
研修会等の参加者数	5,222人	5,827人	6,092人	6,317人
<ul style="list-style-type: none"> ・安全で良質な学校給食を通じた多彩な食育支援活動を展開・拡大していくため、食品衛生や食育等に関する研修会への参加者数を指標に設定した。 ・申し込み希望が多い体験学習会(魚講習会等6講座)の開催回数を、年間35回から45回に増やす(R6)。 ・食品衛生に関する講習会等を栄養教諭、パン・炊飯工場関係者を対象に、年3回実施する(R6)。 ・兵庫県教育委員会が主催する食育支援事業及び衛生管理推進事業を4事業協賛する(R6)。 ・以上の条件を踏まえ、目標値を設定した。 				

学校給食・食育支援事業の推進

2 バリューの創出

バリュー	取組の成果
安全で良質な学校給食用物資の供給	<ul style="list-style-type: none"> ・パン・米飯において、3,224,980千円（対前年比102%）を供給した。 ・所内食品検査（細菌検査、異物検査887検体）及び外部専門機関による食品検査（残留農薬検査、DNA鑑定等502検体）を実施し、供給食材等の安全性を確認している。
地産地消を含めた食育支援活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習会を6講座（35回、2,814人参加）開催し、小中学校が進める食育を支援した。 ・県産食材として、農産品15種類、畜産品3種類、水産物11種類、計29種類84品目を供給し、市町等が進める県産県消をサポートした。 ・新たに、スポーツ施設（5施設）と連携し、食育学習会及び食に関する講演等を実施し、281人が参加した。
人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県及び学校給食関連団体等が主催する各種研修会（新任職員研修、中堅職員研修、リーダーシップ研修、衛生管理研修等）に職員が参加し、幅広い知識の習得に取り組んだ。 ・勤務年数が浅い職員についても、物資供給、食育支援のいずれかの業務の主担当を務め、市町等との窓口となり、経験を積み重ねている。

組織運営体制の整備・充実

1 アウトカム指標

指標	R5実績値	R6目標値	R9目標値	R14目標値
加盟団体の法人化率	16%	19%	23%	27%
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ界に対する注目がますます高まる中、あらゆる暴力・不適切指導等の不祥事の発生を防ぎ、スポーツの価値を一層高めていくため、スポーツの普及・振興の重要な担い手となっている加盟団体において、適正なガバナンスの確保が求められている。 ・全ての協会加盟団体では、スポーツインテグリティの向上やコンプライアンスの徹底を図るため、スポーツ団体ガバナンスコードを遵守し、適切な組織運営を行うことが期待されている。法人化はガバナンスの向上に向けた第一歩と捉え、法人化率を指標に設定した。 				
協会収益事業収支の対前年比	110%	122%	128%	138%
<ul style="list-style-type: none"> ・県内のアスリート及び加盟団体等に対して充実した支援を行うなど、当協会が取り組む各種事業をより発展・継続していくためには、当協会の独自財源を安定的に確保する必要がある。 ・このため、事業の不断の見直し、創意工夫を凝らした取組を推進することによる、協会の収益事業収支の改善を指標に設定した(収益事業等会計 当期経常増減額 R5:6,319,246円、R4:5,722,478円)。 				

組織運営体制の整備・充実

2 バリューの創出

バリュー	取組の成果
組織体制・ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度のプロジェクト・1会議の中で、スポーツ団体の法人化によるメリットや手続きの内容等について弁護士による講演を行い情報発信に努めた。 ・事務局内に加盟団体のガバナンス改革、経営強化等に関する総合相談窓口を設置し、各加盟団体の組織運営体制の整備・充実に向けてアドバイスをを行っている。 ・その結果、既に法人化した17団体に加え、R5年度に1団体、R6年度にも新たに1団体が法人化した。さらに、4団体が法人化に向けて作業中で、現在、具体的な相談に応じている。
経営基盤の強化・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食・食育支援事業は、物価上昇によりコストが増加するなか、安定した経営に向けて、小分け物資の取扱中止など取扱物資の精査に努めた。 ・事務局の移転に合わせて、経営基盤の安定を確保するため、経営判断の材料となる「今後10年間の収支の試算」を行った。